

市民共同おひさまプロジェクトレター

No.10

《編集・発行》かわさき市民共同おひさまプロジェクト 2013年1月24日

「自然エネルギーであそぼう」を川崎市子ども夢パークで開催



2012年11月18日、好天に恵まれて300人が参加。電気をつくったり、その電気でミニカーや電車を動かしたり、太陽で料理したりして、いろんな自然エネルギーでできることを体験しました。そしてエネルギーのことをいっしょに考える機会になったと思います。

協力：川崎市新エネルギー振興協会、サン・ネイチャー・クラブ、(株)トップウォーターシステムズ、ソーラーッキング友の会横浜ジャパン、(社)ソーラーシステム振興協会、省エネグループ、太陽電音(株)、ソニー(株)、環境紙芝居エコ座、NPO 法人川崎市民石けんプラントさぼん草、エナジーグリーン(株)、ソーラーチーム、NPO 法人ぐらす・かわさき、NPO 法人川崎フューチャー・ネットワーク

主催：かわさき市民おひさまプロジェクト、川崎市子ども夢パーク

後援：川崎市、川崎市教育委員会、川崎市地球温暖化防止活動推進センター

助成金：平成24年度かわさき市民公益活動助成金

子ども夢パークは、2003年7月に川崎市が『子どもの権利に関する条例』をもとにつくった施設で、2013年に10周年を迎えます。おひさまプロジェクトは、子ども夢パークの関係者の方々と一緒に将来何らかの自然エネルギー施設を設置出来ないかと、検討を進めているところです。その最初のイベントをこの度開催しました。

おひさま2号機見学対応：2号機として川崎フロンターレに太陽熱温水器を設置してからもうすぐ2年です。

10月13日(土) 午前・晴天
かわさきかえるプロジェクトは、昨年に続き2回目の見学です。てんぷら油燃料で走るバスで25名が来訪。表示板の前でソーラーシステムの説明を熱心に聞き入っていました。



10月28日(日) 午後・小雨
茅ヶ崎自然エネルギーネットワークの「てんぷらバスで行く！見学ツアー」で千葉ソーラーシェアリング見学の後、40名が来訪。選手練習オフの日で、貯湯タンクも見学できました。



10月31日(水) 午後・晴天
麻生区クールアース推進委員会の麻生区自然エネルギー施設見学会では約50名が来訪。寄付者名板を確認される方があり、また3号機はまだですかと私たちへの期待の質問もありました。



自然エネルギーであそぼう！

自然エネルギーとは、「自然」の恵みからつくるエネルギー。

この日は 11 団体のご協力によりさまざまなものが会場に集まり、子どもも大人も、間近に見たり触ったりして楽しく体験できました。

10カ所のコーナーをめぐるとうちわがもらえるスタンプラリーもありました→
(写真担当は、石川潤一、大槻哲史)



☆おひさまのチカラを活用する☆

1. 太陽光で電気をつくる

(川崎市新エネルギー振興協会)



4. 太陽熱でお湯をわかす

((社)ソーラーシステム振興協会)



2. 発電した電気でミニカーをうごかす

(サン・ネイチャー・クラブ)



5. 太陽の光を集めて料理する

(ソーラークッキング友の会横浜ジャパン)



3. 発電した電気で水をきれいにする

((株)トップウォーターシステムズ)



☆^{かぜ}風のチカラを活用する☆

6. 風で電気をつくる (太陽電音(株))



ひと でんき
☆人のチカラで電気をつくる

7. 手でまわしてあかりをつける
(省エネグループ)



8. 足でこいで電気をためる (太陽電音)



9. 手でふってミニトレインをはしらせる
(ソニー)



10. かみしばい (環境紙芝居エコ座)



11. てんぷら油燃料で自動車を走らせる
(かわさき市民石けんプラントさぼん草)



☆協力してくださった全員集合☆



子ども夢パークでソーラーッキング

「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会主催のプチ保養 in 川崎が川崎市青少年の家を拠点に1月5日～9日の4泊5日で実施されました。今回で5回目。1月7日は、てんぷら油燃料で走るバスに乗って14家族、47名の親子が子ども夢パークに遊びにやってきました。おひさまプロジェクトは、自然エネルギーであそぼうのフォローアップとして子ども夢パークに貸出中のソーラークッカーを使って祝島氏本農園のウインナー焼きを提供。たき火で焼いた手作りパンに挟んで美味しそうにほうばっていました。



第4回市民ファンド勉強会～小田原市の再生可能エネルギー事業者の事例

4回目の市民ファンド勉強会を11月20日(火)、川崎市役所第4庁舎会議室で開催しました。川崎市環境局と共に開催するもので、今回は、小田原で再生可能エネルギーの導入事業を開始した小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会(以下、「協議会」)コーディネーターの鈴木大介さんを講師にお迎えしました。

事業化のためには、採算性など事業センスと先見性、エネルギー・環境を地域から解決するとの高い志が必要であり、市民と事業者が一緒になって検討する場が必要であることが分かった勉強会でした。

以下、鈴木さんの講演の概要です。

小田原市の地域資源としての太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーを市民・事業者・行政の協力で活用することを検討するための協議会を昨年12月に設立しました(これは環境省委託事業～廣瀬の注記)。

当面の目標として太陽光発電の導入を検討し、「公共施設の屋根貸し」の手法を調査しましたが、事業規模が採算ベースにならないことが判断断念しました。結果的に民有地(公共残土埋め立て跡地、4ha)へのメガソーラー設置の案が浮上しました。

FIT制度の効果的な活用(税抜40円/kWh, 20年間)のためには、事業者を今年中に設立し、来年3月までに電力会社と協議は終了していることが必要であ



り、まさに事業者は12月11日登記予定です。

当面は、小田原市内の事業者を中心に出資を募り行政が係ること民間資金だけで出資金を集めています。

事業目的には、市域の活性化があり、電気設備工事、メンテナンスは市内業者に発注し、市内の事業者の技術力の向上に寄与できるスキームにする予定です。

事業資金は約3.5億円程度と試算しており、地元金融機関からの出資をメインに事業を開始します。市民ファンドについては、資金集めにかかる費用の課題があるが、市民参加が事業目的の一つであり、今後、市民ファンドの立ち上げを予定しています。

今後、情報交換を行い、飯田市の成功例に続く市民ファンド事業を活性化していきたい。(廣瀬健二)

ドイツの太陽エネルギー利用視察団に参加して

2012年10月15日から5泊7日で、在日ドイツ商工会議所主催の「ドイツ太陽エネルギー視察」団に参加した。この視察はドイツの太陽エネルギー市場の実情の紹介を通じて、日本の太陽熱利用の更なる発展と日独交流の促進が目的であった。総勢19名の内、おひさまプロジェクトから岩本孝子、廣瀬健二、根岸哲の3名が参加した。視察団の受け入れ先は太陽熱利用が盛んな南西ドイツ地域の主要都市の手工業会議所とこれを支える研究機関である。

初日の10月16日はデュッセルドルフで導入セミナーが開催され、ドイツの太陽熱利用の実情と最新の研究成果が紹介された。その後、ドイツが誇る研究都市アーヘンや環境都市フライブルクにある太陽熱関連施設、企業、研究機関を5日間の日程で視察した。紙面の制限上、印象深い二、三の訪問先を紹介する。

1) ユーリッヒ・ソーラータワー発電所: Tower型太陽光発電システムで高さ60mのタワーに設けられたセラミック製受光装置に、地上に配置された2,153枚の平板型Heliostat(総面積は17,650㎡)から光を集め空気を600℃程に加熱して発電用蒸気タービンで発電する。この種の発電は、



ユーリッヒ・ソーラータワー発電所の全貌

緯度の高いドイツには不向きだが、北アフリカ等での実用化を視野に入れて開発中とのこと。

2) 環境モデル都市「ヒルテンヴィーゼン II」: 米軍基地の跡地を2,000人の住宅地に転用し戸建・集合住宅、学校、商店等の暖房の年間エネルギー量(410万kWh)の50%を太陽熱のエネルギーで賄う。地下にチューブを埋設した蓄熱槽(37,500㎡)に夏季の余剰エネルギーを貯め、冬季の不足を補う。住宅地と工業団地を区切る土手に設置されたドイツ最大の太陽熱温水パネル(5,300㎡で出力は3,400kWh)の景観には圧倒された。

3) 太陽エネルギー利用の技能訓練に職業・技術研修センターの役割が大きい。中小企業の労働者を対象に、地域の職業能力向上の訓練と産業間の円滑労働力移転に寄与。太陽熱技術の資格はドイツ全国の統一資格で設置技能だけでなく、コンサルティング、セールス、組み立て、サービスの全てが適切に出来ることが要求される。その為に基礎学科、太陽光発電、太陽熱利用、マーケティングの総受講時間は200時間の教育を提供している。

全体の印象は①EU、ドイツ連邦共和国、州政府等の政策が浸透、②EU全域をベストミックスの対象域として捉え、③技術開発・モデルプロジェクトは広域を視野に入れ、④地域暖房は高断熱住宅と既存の配管システムがベース、⑤資金の多くを補助金でカバー、⑥手工業者が地域の太陽熱利用を促進し、⑦地域の研究機関と手工業会議所が協力して生涯教育をする。(根岸哲)

5) 資金の多くを補助金でカバー、6) 手工業者が地域の太陽熱利用を促進し、7) 地域の研究機関と手工業会議所が協力して生涯教育をする。(根岸哲)

編集後記 再生可能エネルギーの普及のために固定価格買取制度が2012年7月から始まりました。勉強会の小田原市の事例から学び、川崎でも、市民ファンドや再生可能エネルギー会社の設立を望む声も聞かれます。今後の広がりに期待しましょう。(飯田和子)

発行人 かわさき市民共同おひさまプロジェクト 代表 岩本孝子
〒212-0012 神奈川県川崎市幸区中幸町3-26-24-1211
電話:044-200-4109 メール:ohisama@r2.ucom.ne.jp